

II 令和元年度及び5年間の実施状況

1 地域志向型の教育カリキュラムの整備・推進

(1) 地域貢献特定プログラムの実施

本COC+における教育カリキュラム改革の中心として、新規科目の設定と既存科目の充実による「地域貢献特定プログラム」を導入し、平成28年度の新入生を対象としてスタートした。地域を学び、地域への愛着を深め、将来にわたり地域で活躍できる知識や能力を修得することができるよう、地域志向型科目のラインナップを揃え、体系的なカリキュラムとして実施している。

平成29年度から専門教育科目9科目を追加し、全23科目とした。平成28年度から令和元年度までの履修状況は次のページの表のとおり。

平成30年度には実施から3年を経過し、3年次修了学生のうち、所定の単位数を満たした36名が、初めてのプログラム習得者として認定された。令和元年度のプログラム習得者は14名となった。

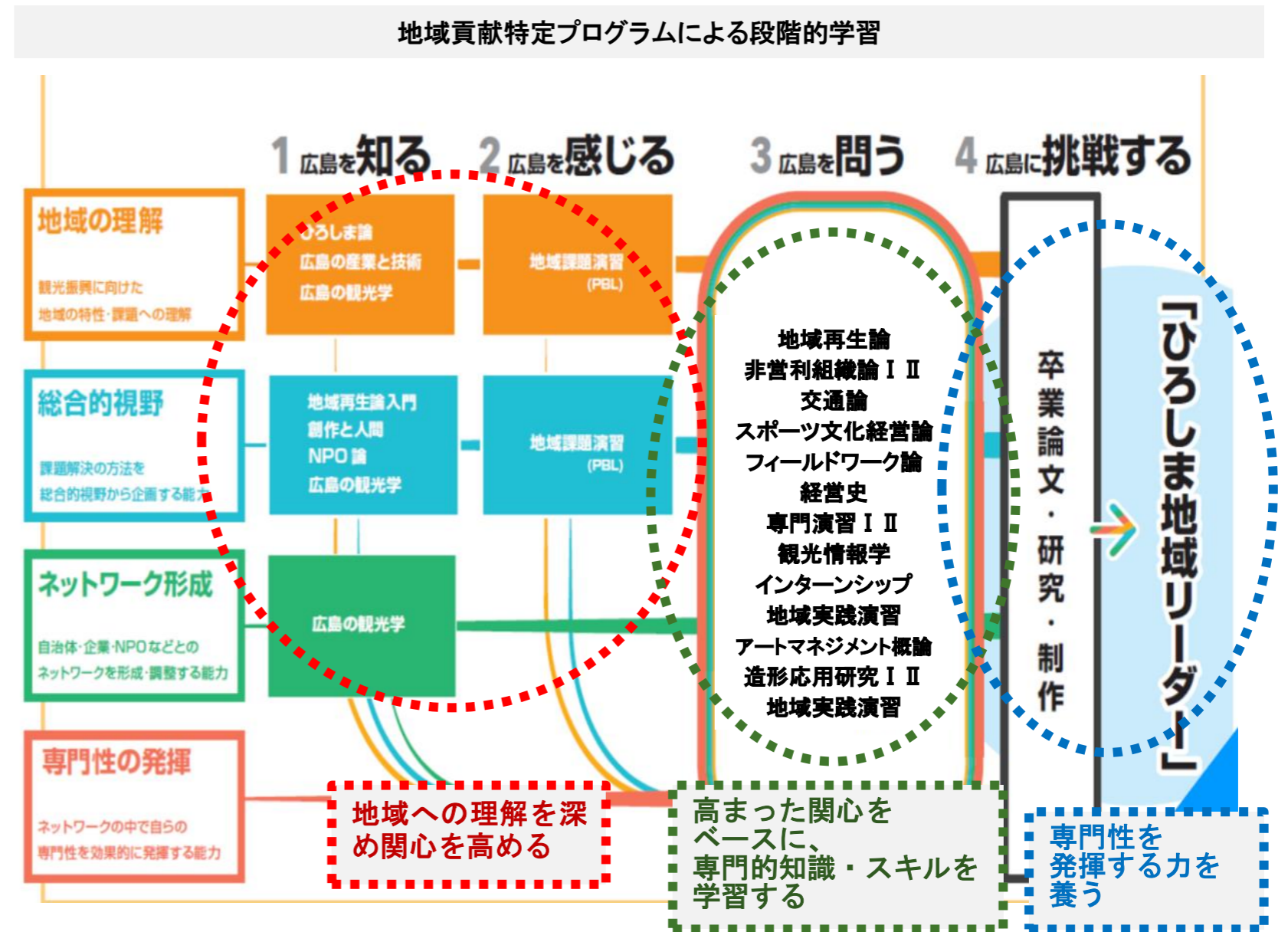
- 名称 「地域貢献特定プログラム」
- 対象 平成28年度以降の入学生に適用
- 認定要件 地域貢献特定プログラムの科目を8単位以上修得した者を、プログラム習得者として認定する。

認定に必要な単位：次ページの表の区分A, Bから各2単位以上、C「地域課題演習」または「地域実践演習」から1単位以上、専門教育科目のDから2単位以上を履修し、A～Dを含めて合計で8単位以上習得する。

- 科目数 23科目（新設した科目は9科目）
全学共通系科目 7科目、
専門教育科目 16科目

■履修状況（H28年度～R元年度）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
全学共通系科目	5科目	7科目	7科目	7科目
専門教育科目	—	10科目	16科目	16科目、地域をテーマとした卒業論文・研究・制作
履修者数(延べ)	723人	1,167人	1,376人	1,256人
認定者	—	—	地域貢献特定プログラム認定者 36人	地域貢献特定プログラム認定者 14人 ひろしま地域リーダー授与者 17人



■地域貢献特定プログラムの科目と履修者数（H28年度～R元年度）

科目区分	区分	科目名称	単位数	開設年次・学期	開講年度	H28年度	H29年度			H30年度				R元年度				
						H28入学生	H28入学生	H29入学生	計	H28入学生	H29入学生	H30入学生	計	H28入学生	H29入学生	H30入学生	R元年度入学生	計
全学共通系科目	総合科目	A 地域再生論入門	2	1・2年・後	H29		0	22	22	15	10	50	75	2	8	10	27	47
		創作と人間		1・2年・前	H28	124	51	85	136	17	55	68	140	7	13	24	70	114
		NPO論		1・2年・前		32	0	54	54	4	3	56	63	2	5	1	71	79
	広島科目	B 広島の観光学		1・2年・前		56	7	66	73	7	0	47	54	2	3	1	98	104
		ひろしま論		1・2年・前		229	82	283	365	6	59	290	355	8	5	29	267	309
		広島の産業と技術		1・2年・後		282	33	199	232	5	44	201	250	3	14	23	171	211
C 地域課題演習	1	1・2年次	H29			60		60	2	52		54	2	1	35	14	52	
国際学部 国際学部 専門教育科目	公共政策・ NPOプログラム	D		2	2・3年・後		77		77	2	19		21	1	23	44		68
					2年・前		17		17	5	14		19	4	18	26		48
					2年・後		10		10	4	5		9	3	6	12		21
					2年・前		10		10	5	13		18	1	4	1		6
					2年・後		26		26	11	60		71	6	14	48		68
			2年・後			13		13	2	0		2	0	4	17		21	
国際ビジネスプログラム	C	1	2年・前		1		1	9	8		17	3	10	16		29		
			3年・前				5			5	0	0			0			
国際学部 専門教育科目	多文化共生プログラム	C	1	3年・後	H30				4			4	0	0			0	
				3年・前					5			5	0	0			0	
情報科学部 専門教育科目	専門基礎科目・ 専門科目 (学部共通科目)	D	2	2・3年・前	H29		33	33	33	102		135	1	3	34		38	
				3年次	H30				6			6	0	5		5		
		C 地域実践演習	1	3年次					10			10	4	2		6		
芸術学部 専門教育科目	専門基礎科目	D	2	2年・後		H29		38	38	3	34		37	5	1	19		25
				2～4年次			0	0	12	0		12	0	0	0		0	
				3・4年次	H30					0			0	0	0		0	
		C 地域実践演習	1	3年次					19			19	0	5		5		
合計						723	458	709	1,167	186	478	712	1,376	54	144	340	718	1,256

※特別聴講生(留学生)を除く

(2) 地域貢献特定プログラムによる地域志向マインド醸成効果

地域貢献特定プログラムの履修学生に対するアンケート調査を、受講前後に実施した。

プログラムの講義の受講後に広島市を中心とした地域についての関心が高まったかどうかという意識の変化を把握し、履修前における地域への関心度と比較して、地域志向マインドの醸成効果とした。

■地域貢献特定プログラム科目のアンケート調査（R元年度）

令和元年度にアンケートを実施した科目は、全学共通系科目の「NPO論」「広島の観光学」「地域再生論入門」「ひろしま論」「広島産業と技術」「地域課題演習」、情報科学部専門教育科目の「観光情報学」の7科目。全学共通系の6科目は選択必修科目であり、ほとんどの学生が履修する。

広島市を中心とした地域についての関心について(下の表)、「非常に高まった」「高まった」と答えた割合の合計でみると、平成28年度は6割であったが、平成29年度から令和元年度においては8割の学生において関心の高まりが確認できた。

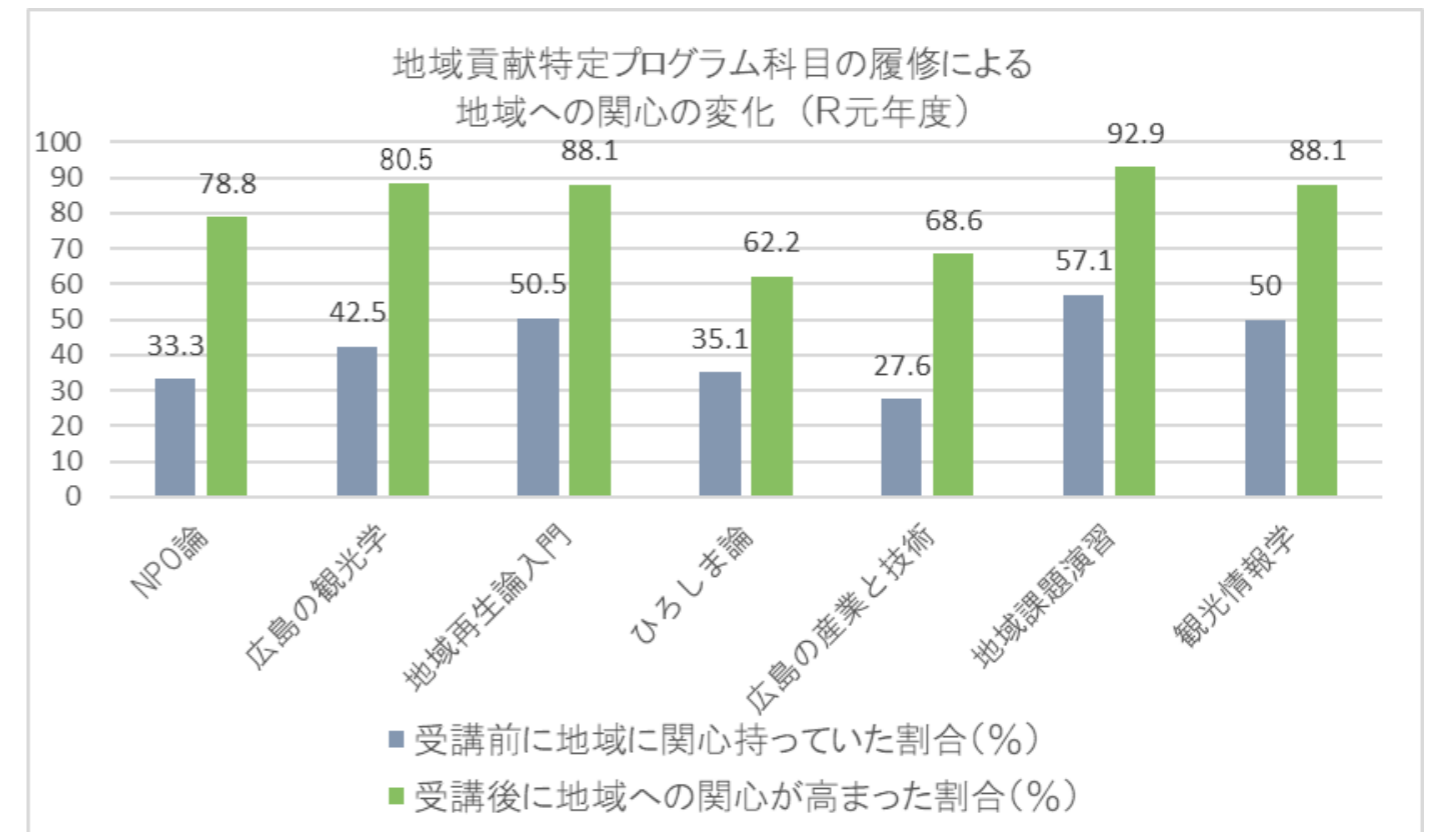
令和元年度の地域への関心の変化を科目別にみると(右の表)、受講前後の関心度が最もアップしたのが「NPO論」で45.4ポイントアップ、次いで「広島産業と技術」の41.8ポイントアップとなっている。受講前から関心度が5割を超えていた科目が「地域再生論入門」「地域課題演習」「観光情報学」であり、これらの科目の受講後はほぼ9割の学生が関心を高めたと回答し、科目の学習を通じて地域へ意識がさらに高まったことが確認できた。

■受講後の地域への関心度の推移（H28年度～R元年度）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
アンケート実施科目	2科目	4科目	5科目	7科目
受講後に地域への関心が高まった割合	62.4%	78.4%	82.0%	79.9%

R元年度のアンケート調査結果

科目名	回答学生	受講前の地域への関心度			受講後の地域への関心度		
		①非常に興味を持っていた	②関心を持っていた	①+②	①非常に高まった	②高まった	①+②
NPO論	66人	9人 (13.6%)	13人 (19.7%)	22人 (33.3%)	12人 (18.2%)	38人 (57.6%)	50人 (78.8%)
広島観光学	87人	5人 (5.7%)	32人 (36.8%)	37人 (42.5%)	17人 (19.5%)	53人 (60.9%)	70人 (80.5%)
地域再生論入門	42人	2人 (4.8%)	19人 (45.2%)	21人 (50.0%)	15人 (35.7%)	22人 (52.4%)	37人 (88.1%)
ひろしま論	225人	25人 (11.1%)	54人 (24.0%)	79人 (35.1%)	31人 (13.8%)	109人 (48.4%)	140人 (62.2%)
広島産業と技術	156人	10人 (6.4%)	33人 (21.2%)	43人 (27.6%)	14人 (9.0%)	93人 (59.6%)	107人 (68.6%)
地域課題演習	42人	6人 (14.3%)	18人 (42.9%)	24人 (57.1%)	17人 (40.5%)	22人 (52.4%)	39人 (92.9%)
観光情報学	34人	8人 (23.5%)	9人 (26.5%)	17人 (50.0%)	7人 (35.7%)	24人 (52.4%)	37人 (88.1%)



(3) プログラムの単位習得と地域リーダーの認定 (H30年度・R元年度)

学部	H30年度			R元年度		
	国際	情報科学	芸術	国際	情報科学	芸術
地域貢献特定プログラム 単位習得者	15人	3人	18人	7人	2人	5人
	計36人 (H28年度入学生)			計14人 (H29年度入学生)		
ひろしま地域リーダー 認定者	—			9人	1人	7人
				計17人 (H28年度入学生)		

「地域貢献特定プログラム」において、3年次までに指定され要件を満たして8単位以上を取得した学生を、プログラム習得者として、平成30年度に36人、令和元年度には14人認定した。また、プログラム習得者が4年次において、さらに地域に関する卒業論文、卒業研究、卒業制作に取り組み、令和元年度に広島地域リーダーの認定を受けた学生は17人となった。

認定者数については、事業開始当初に設定した目標数に達していない。ひろしま地域リーダー認定の前提条件となる、プログラムの単位取得者数が伸びておらず、その要因は科目の構成、学生の認知度などが考えられる。特に、3学部のうち学生の半分以上を占める情報科学部の履修が少なく、全体の認定数に大きく影響している。

※情報科学部に履修指定されている全学共通系科目の「基礎生化学」と、右の表Aの「地域再生論入門」の時間割が重複していた。また、情報科学部は認定に必要な演習科目の一つである「地域課題演習」の履修者も少ない。

【地域課題演習の学部別履修者数】(履修率)

	H29年度(2年)	H30年度(2年)	R元年度(1,2年)
国際学部	28人(26%)	21人(18%)	18人(8%)
情報科学部	10人(4%)	14人(6%)	18人(4%)
芸術学部	16人(18%)	16人(18%)	18人(10%)

■プログラム科目と認定要件の見直し (R元年度)

認定者数を増やす対策の一つとして、認定要件の一部見直しを行い、令和2年度から適用する。「総合科目」と「広島科目」の区分をなくして「広島・地域志向科目」として集約し、単位の要件を緩和し、科目選択の自由度高めた。また、「創作と人間」は芸術学部に偏った履修状況であったため、これに代えて新たに「地域ボランティア活動」を寄付講座により開講する。

H30年度「地域貢献特定プログラム」単位認定者(36人)の学部別状況

目標人数:80人(3学部400人の20%)

【国際学部】認定15人(100人の20%⇒目標20人に対しマイナス5人)

【情報科学部】認定3人(210人の20%⇒目標42人に対しマイナス39人)

【芸術学部】認定18人(80人の20%⇒目標16人に対しプラス2人)

R元年度「地域貢献特定プログラム」単位認定者(14人)の学部別状況

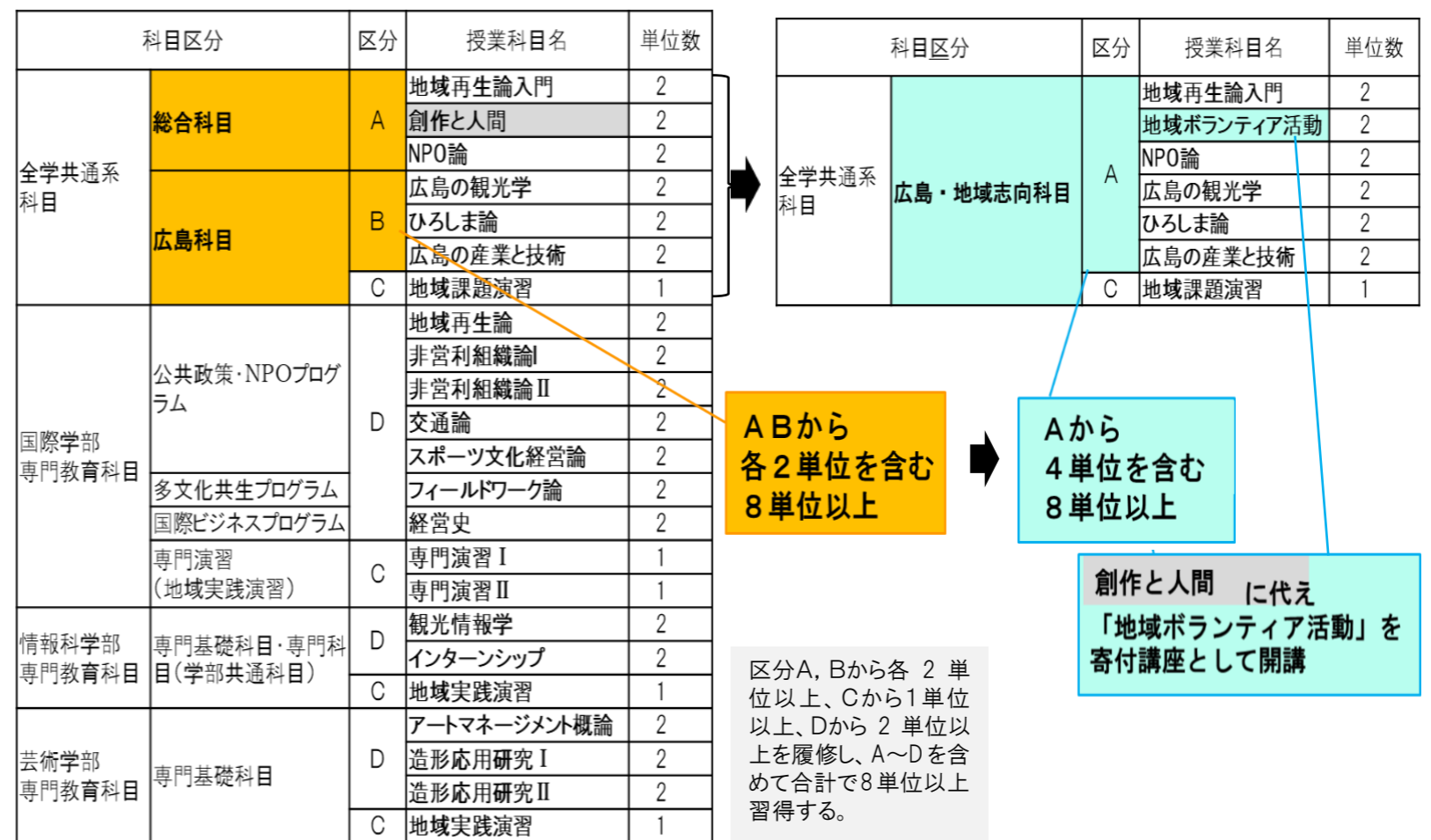
目標人数:90人(3学部400人の22.5%)

【国際学部】認定7人(100人の22.5%⇒目標23人に対しマイナス16人)

【情報科学部】認定2人(210人の22.5%⇒目標47人に対しマイナス45人)

【芸術学部】認定5人(80人の22.5%⇒目標18人に対しマイナス13人)

地域貢献特定プログラム科目と認定要件の見直し (R2年度から適用)



(4) 演習科目の実施状況

① 「地域課題演習」の実施 (R 元年度)

地域貢献特定プログラムにおいて、ステップ2「広島を感じる」科目として、「地域課題演習」を平成 29 年度に開講した。

この科目の目的は、事業協働地域である 25 の市町の持つ多彩な魅力や資源、行われている様々な取組などについて、学生が現地での知見や考察を深めることで、地域の特性や課題への理解を促し、地域志向のマインドを育てることを目指している。

令和元年度は、履修年次を前年度の 2 年次から 1・2 年次に拡大した。対象を広げたことから、学生に提示する演習テーマ数は、地域のバランスや活動内容を考慮しながら 12 のテーマを設定した。学生の実験希望により、このうち 6 テーマを実施した。また、指導体制として、3 学部から 25 名の教員(代表教員、主担当・副担当教員)があたることにし、地域の現場での指導を経験する機会とした。

- テーマ数： 12 のテーマを設定し、学生の選択により 6 テーマを実施
- 実施地域： 広島市、呉市、竹原市、平生町
- 履修学生数： 54 人
※特別聴講生(留学生)2 人を含む

演習テーマを設定した 12 の地域



**地域を体験！
魅力と課題を知る
地域課題演習**

対象年次 1・2 年

地域をキャンパスにした演習です。参加してみよう！

広島市を中心とした地域にはさまざまな魅力があり、人々の取り組みがあります。この演習は、各グループで地域を訪ね、現地での体験を通して自らが見つけた課題を考察します。

第 1 回講義「地域課題演習の説明会」 ぜひ来てください。
4 月 8 日(月) 2 時限 講堂小ホール

テーマごとの担当教員から演習内容のプレゼンテーションがあります。[演習テーマ ①～⑫は裏面]
(テーマの選択は第 3 回講義日まで受け付けます。)

問：社会連携センター (國本、吉岡、永留) 082-830-1842 shakai@hiroshima-u.ac.jp

写真はいずれも 2018 年度の演習の様様

■令和元年度「地域課題演習」 シラバス概要

履修対象 1・2 年次(全学共通系科目、1 単位)

代表教員 国際学部教授・副学長 渡辺智恵

演習担当教員 主担当 12 名、 副担当 12 名

講義の概要

広島市を中心とした一帯の経済生活圏は、市町ごとに多彩な環境や文化等を有している。この地域の魅力や資源、人々の取組などについて学習し、現地において知見や考察を深めることで、地域の特性や課題について理解することを目指す。地域を知るための入門演習とする。

到達目標

- ・演習を行う対象地域の状況について、魅力や課題に気づく力を身につける。
- ・グループワークにより、一定の成果を導き出すプロセスを習得する。

講義の内容

<全体でのガイダンス>

- 1回 演習の概要説明、テーマ説明、テーマの選択
- 2回 学習の進め方、現地での活動の方法、グループの編成
- <テーマごとにグループでの学習・活動>

3～13 回

- (事前学習)テーマや地域への理解、活動目標の設定
- (現地活動)1～2日程度の現地での活動
- (事後学習)現地活動の整理

<全体での取りまとめ>

- 14・15 回 グループでの演習の振り返り、全体で演習結果の共有(第 1 回発表会、第 2 回発表会)

【演習テーマ】

次の①から⑩までの演習テーマの選択は希望による。希望者が 3 名に満たないテーマは実施しない。(テーマ名、地域名、主担当教員名)

- ①「SETOUCHI の海の魅力を見つけよう」(呉市) 国際学部教授 山口光明
- ②「毛利氏の歴史を学ぶ」(広島市、安芸高田市、岩国市) 国際学部准教授 高久賢也
- ③「宮島だけじゃない!?廿日市の魅力を発見する」(廿日市市) 情報科学研究科講師 谷川一哉
- ④「安芸灘とびしま海道ポタリングの旅～歴史と文化に触れる～」(呉市) 情報科学研究科准教授 岩根典之
- ⑤「竹原市をPRする観光映像を作る」(竹原市・大久野島) 情報科学研究科准教授 島 和之
- ⑥「作家と風土～平山郁夫」(尾道市・広島市) 芸術学部教授 藁谷実
- ⑦「広島市内の河川環境を利用した、リバーツーリングの楽しみ方を知る」(広島市内・河川域) 芸術学部講師 藤江竜太郎
- ⑧「農林体験による里山ライフスタイルを知る」(安芸高田市) 社会連携センター-特任助教 三上賢治
- ⑨「地方移住のライフスタイルと活動を知る」(山口県・平生町) 社会連携センター-特任教授 國本善平
- ⑩「瀬戸内海の宝「御手洗(みたらい)」の建築遺産とリノベーションを体感」(呉市) 社会連携センター-特任教授 佐藤俊雄
- ⑪「広島食文化企業へ行こう」(広島市、廿日市市) 社会連携センター-特任准教授 吉岡研一
- ⑫「錦帯橋・岩国城だけじゃない。歴史ある周防の城下町を撮ろう」(山口県・岩国市) 社会連携センター-特任助教 植松敏美

■「地域課題演習」の履修状況（R元年度）

令和元年度に実施したテーマは以下の6テーマであり、特別聴講生(留学生)2人を含む54人が履修した(平成30年度は7テーマを実施し、54人が履修)。履修対象を1年次まで広げたが、結果として前年度と同数の履修となった。

履修率は1、2年生全体の6.0%。学部別履修者数では三学部とも同数となったが、履修率では芸術学部が10.2%、国際学部が8.1%、情報科学部は3.6%となった。男女別では女性が70.4%を占め、1、2年の女性の割合45.0%に対して高い履修率となり、現地での活動や発表においても積極的な姿勢がみられた。

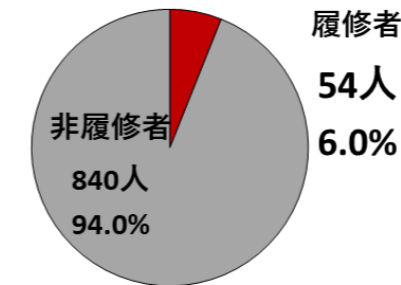
R元年度に実施した演習テーマ

実施テーマ	地域	学生	主担当	副担当
①SETOUCHIの海の魅力を見つけよう	呉市	7人	国際学部 山口光明	情報科学部 長谷川義大
②安芸灘とびしま海道ポタリングの旅	呉市	10	情報科学部 岩根典之	国際学部 井手吉成佳
③竹原市をPRする観光映像を作る	竹原市	7	情報科学部 島和之	国際学部 高久賢也
④広島市内の河川環境を利用した、リバーツーリングの楽しみ方を知る	広島市	13	芸術学部 藤江竜太郎	社会連携センター 植松敏美
⑤地方移住のライフスタイルと活動を知る	平生町	10	社会連携センター 國本善平	芸術学部 青木伸介
⑥瀬戸内海の宝「御手洗(みたらい)」の建築遺産とリノベーションを体感	呉市	7	社会連携センター 佐藤俊雄	国際学部 金谷信子



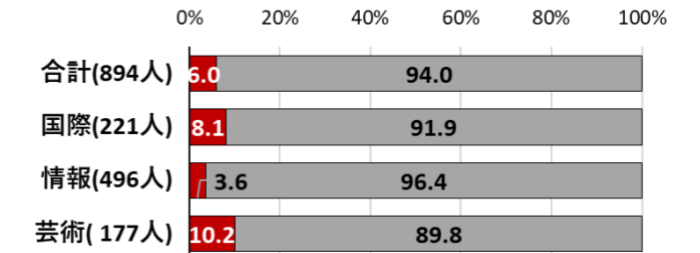
R元年度 地域課題演習の履修分析

1、2年生全体(894人)の履修率

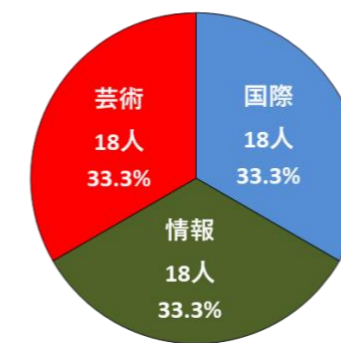


注) 2019.5.1現在の在籍学生数

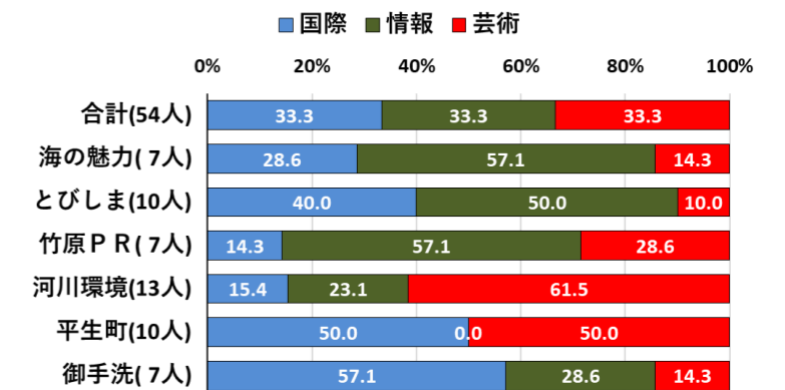
学部別履修率



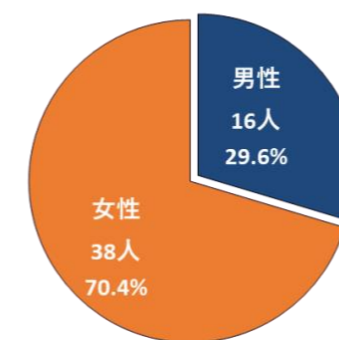
学部別履修者の割合(全体)



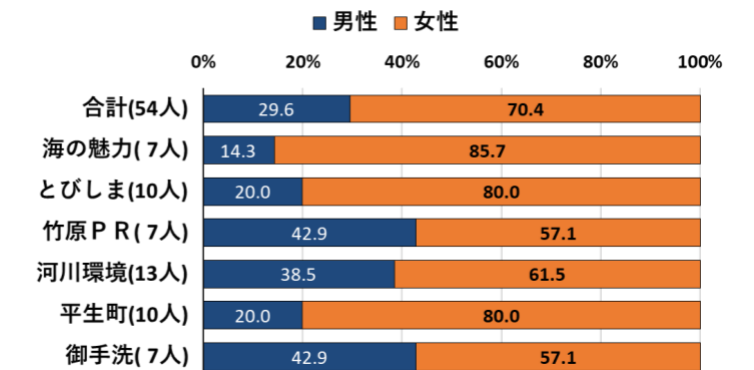
テーマ別履修者の学部



男女別履修者の割合(全体)



テーマ別履修者の性別



■ 「地域課題演習」の実施成果 (H29年度～R元年度)

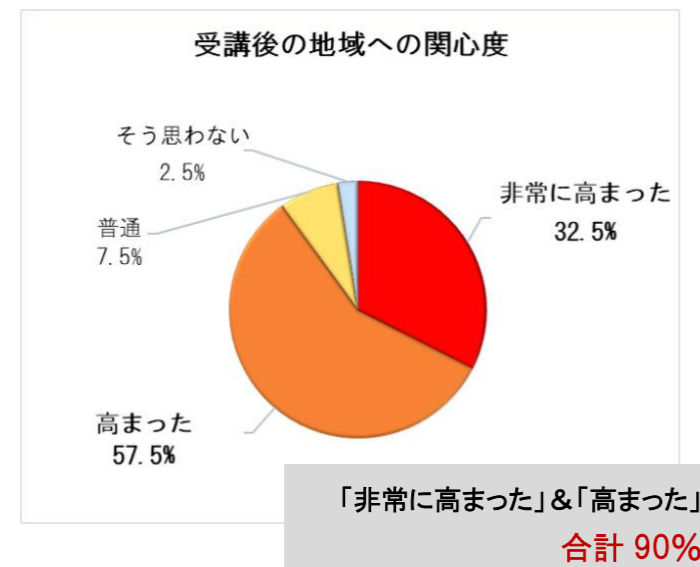
「地課題演習」を3年間に於いて、各年度に6ないし7のテーマを実施してきた。学生はテーマに分かれて、それぞれの地域の魅力や課題の学習、課題解決への提案などを行い、合同発表会で活動や経験を共有することにより、地域への認識を深めた。履修者の合計は168人となった。

学生へのアンケート結果による地域への関心度について、受講前は「非常に興味を持っていた」と「興味を持っていた」の合計が平均で54.4%であったのに対し、受講後は「非常に高まった」と「高まった」の合計が平均で85.5%となり、31.1ポイント上昇した。この演習を履修する学生は、地域への関心を持った学生が半数以上となっており、意欲的な学習態度が見られた。

アンケートに現れた個別のコメントでも、「地域で積極的に活動したい」「地域に貢献できることは何か考えたい」などが見られ、総じて、地域への入門演習として、地域志向マインドの醸成に顕著な効果があったと考えられる。

地域課題演習 3年間の実施概要

	H29年度	H30年度	R元年度	計
設定テーマ数	10	10	12	—
実施テーマ数	6	7	6	延べ19
履修者数	60人(2年次)	54人(2年次)	54人(1・2年次)	168人
受講前に地域に関心を持っていた割合①	51.2%	55.0%	57.1%	平均54.4%
受講後に地域への関心が高まった割合②	74.4%	90.0%	92.9%	平均85.5%
関心度の上昇②-①	23.2ポイント上昇	35.0ポイント上昇	35.8ポイント上昇	平均31.1ポイント上昇



地域課題演習 3年間のテーマ・地域・体験・成果

- テーマ
水産
地域PR
行動情報
河川環境
島
農業
6次産業
観光
歴史文化
食文化
移住
建築遺産
- 体験
地域の暮らし
撮影
施設見学
企業訪問
魚の養殖
農作業
ジビエ
自転車
情報収集
ポタリング
路上観察
サップ
カヤック
ヒアリング
講話
祭りスタッフ
宿泊
食
- 成果
地域課題の考察
地域を体感
地域への認識
発表会による共有

PR映像制作
マップ制作
チラシデザイン
行動データ収集
KJ法分析
グループワーク
プレゼンテーション
学部を超えた交流
教員の地域体験
- 地域
中山間地
半島
離島
海道
小都市
広島都心部

●受講した感想

地域には知らないことが多いと感じた。普段の生活では気付けない発見があった。学内だけでなく、地域での学習が大切だと分かった。課題意識をもって地域を見ていきたい。地域の現状や歴史を知り、関心がわいた。どう学び、生きるか、選択肢が広がった。

●地域への向き合い方

広い視野を持ちながら、地域で少しでも活動したい。地域をもっと知って、積極的に関わりたい。地域でどう生きるか考えたい。地域に密接した仕事を意識した。自分が地域に貢献できることは何か、考えたい。広島が好きになってきた。

受講後のアンケートより

②「地域課題演習」の各年度のテーマと概要 (H29年度～R元年度) <1>

テーマ	瀬戸内海の水産と魚の楽しみ方を知る	竹原市をPRする観光映像を作る	しまなみ海道を自転車で走って行動情報を収集する	中山間地域の食文化とライフスタイルを知る	半島地域の自然・歴史・味を感じる	尾道の歴史や文化を探访する
地域	呉市・広島市	竹原市	尾道市	安芸高田市	山口県・上関町	尾道市
実施年度 (履修者数)	H29(6人) H30(4人) R元(7人)	H29(15人) H30(6人) R元(7人)	H29(14人) H30(17人)	H29(16人)	H29(4人)	H29(5人)
主担当教員	国際学部教授 山口光明	情報科学部准教授 島和之	情報科学部教授 竹澤寿幸	社会連携センター 特任助教 三上健治	社会連携センター 特任教授 佐藤俊雄	社会連携センター 特任准教授 吉岡研一
実施内容	<p>瀬戸内海の水産の状況や魚の生態を学び、近海魚「チヌ・フオアグラハギ」を対象にしながら、バーチャルリアリティーの技術を活用した瀬戸内の魅力の発信について考える。</p>   	<p>竹原市の文化や産業、大久野島の歴史や自然などを、新しい映像技術を用いて収録・編集・発信し、新しい角度から魅力的に伝えることを体験する。</p>   	<p>しまなみ海道でサイクリングをする観光客が増えていることを理解する。体験型観光の重要性を認識するとともにGPSロガーで行動情報を収集する体験をし、観光ビッグデータへの理解を深める。</p>   	<p>中山間地域の伝統的な食文化や鹿やイノシシといった害獣の食資源としての活用事例(ジビエ)を学ぶとともに、自然と共に暮らすライフスタイルを体験し、中山間地域の将来を考える。</p>   	<p>瀬戸内海は古くから海外との交流と物流の大動脈の役割を有していたため、半島地域には歴史遺産や豊かな自然環境が残され、独自の食文化があることを実感する。観光振興や地域活性化に生かすための資源の確認や解決すべき課題を把握する。</p>   	<p>文化芸術観光都市・尾道においても少子高齢社会の進展に伴う人口減少等の影響から空屋が目立つようになり、まちの風情が変わりつつある。尾道の歴史を学習するとともに、尾道観光の拠点である千光寺の周辺を探访し、尾道の町並みを保持・再生しようとする行政・市民の活動の一端に触れる。</p>   

「地域課題演習」の各年度のテーマと概要（H29年度～R元年度）〈2〉

<p>広島市内の河川環境を利用した、リバーツーリングの楽しみ方を知る</p>	<p>瀬戸内のハワイ周防大島の島暮らしを体験し、島移住の課題と魅力を知る</p>	<p>世羅高原の6次産業を訪ねる</p>	<p>離島の「非日常性」を体感する</p>	<p>安芸灘とびしま海道ポタリングの旅 ～歴史と文化に触れる～</p>	<p>地方移住のライフスタイルと活動を知る</p>	<p>瀬戸内海の宝「御手洗(みたらい)」の建築遺産とリノベーションを体感</p>
<p>広島市 H30(8人) R元(13人)</p>	<p>周防大島町 H30(6人)</p>	<p>世羅町 H30(8人)</p>	<p>三原市(三木島) H30(5人)</p>	<p>呉市 R元(10人)</p>	<p>山口県・平生町 R元(10人)</p>	<p>呉市 R元(7人)</p>
<p>芸術学部講師 藤江竜太郎</p>	<p>社会連携センター 特任助教 三上健治</p>	<p>社会連携センター 特任教授 國本善平</p>	<p>社会連携センター 特任教授 佐藤俊雄</p>	<p>情報科学部准教授 岩根典之</p>	<p>社会連携センター 特任教授 國本善平</p>	<p>社会連携センター 特任教授 佐藤俊雄</p>
<p>広島市内中心部の基町護岸等を起点に、近年、都市型サーフカルチャーとして注目されるスタンダップパドル(SUP)を用いて、広島市内の河川環境の魅力をフルに楽しむ。広島市内の護岸オープンカフェなどの活用事例を体験から学び、身近な河川の新たな活用方法や魅力を学ぶ。</p>	<p>山口県周防大島が瀬戸内のハワイと呼ばれるようになったハワイ移民の歴史から現在の移住促進の課題と成果について学ぶとともに、ブルーツーリズム(SUP、カヤック、漁業など)を通じた島暮らしの魅力を体験する。</p>	<p>世羅町は農産物の生産・加工・商品化・販売に力を入れた6次産業化のプロジェクトが進められ、その取組は全国的にも高い評価を受けている。また、住民や移住者による農家民泊やカフェなど、様々な活動を生み出している。そうした「6次産業のネットワーク」を学習し、現地での体験を通して、さらなる活性化に向けた課題について考える。</p>	<p>三原市の佐木島の自然環境の魅力を体感するとともに、過疎化や暮らしの実態に触れる。佐木島は小さい島ながら長年トリアスロンで地域を盛り上げてきた。近年では移住者が起業するなど、離島の再生につながる動きもみられる。離島を訪れることで、瀬戸内海の風景の魅力の一端に触れるとともに、地域活性化に向けた課題を考える。</p>	<p>瀬戸内海の庭園といわれる「とびしま海道」の島々の自然や歴史文化、生活などに触れる。蒲刈島をベースに1泊2日でとびしまの各島を探索しながらICT機器で行動を記録して地域体験について考える。</p>	<p>平生町は瀬戸内海に面し、温暖で健康寿命の長い町でもある。近年は人口減少の課題を抱え、「イタリアーノ平生」を宣言するなどして活性化に取り組んでいる。そうした平生町には環境や風土、景観のすばらしさなどに魅かれて移住した人々がいる。彼らライフスタイルや活動ぶりにふれることで、地方への移住や活性化のあり方について考える。</p>	<p>瀬戸内海の港町の一つである御手洗は、重伝建(重要伝統的建造物群保存地区)に指定され、町全体が文化財である。本土から遠いため、観光客も多くなく、空家が発生しているが、これらを飲食施設やゲストハウス等に再生する取り組みが移住者により始まっている。歴史的建造物及びそれらがリノベーションされた空間の魅力を体感し、地域再生のあり方について考える。</p>
						

③ 「地域実践演習」の実施（H30年度・R元年度）

「地域実践演習」は、COC+地域貢献特定プログラムのカリキュラムシーケンスにおいて「広島を問う」科目として位置づけ、専門教育科目として各学部の専門性や知見とを生かして地域の魅力を引き出し、より高めていく取組や、地域の課題解決を実践的に試行する演習として開設した。

（国際学部は既存の「専門演習」の一部を「地域実践演習」として位置づけ、情報科学部と芸術学部は新規に開講）。

■ 演習の方針

学部専門教育科目として、「全学共通系の地域志向科目」での学習や、各学部の専門性を生かして、広島市とその周辺地域を対象に、地域再生や観光振興など地域の課題解決に向け、あるいは地域性をテーマとして、PBL（課題解決型学習）等の手法により、実践的な演習を行う

（COC+教育プログラム専門委員会及びカリキュラム編成WG合同会議で検討、準備を行った。授業設計の方針としてこととし、各学部教授会を通じ、担当教員の決定及びシラバスの作成を行った。）

■ 対象学年・単位数 3年・1単位

■ 履修状況（H30年度・R元年度）

	H30年度	R元年度	計
履修者数	34人	11人	45人

学部 科目区分	演習の概要	履修学生数		担当教員
		H30	R元	
国際学部 専門科目	社会学の観点から祝島をフィールドワーク 祝島は他の離島同様、過疎と高齢化が深刻で、そのうえ原発計画という国策が未来を拘束してきた。そのなかで、島の人々はどのように過去を見つめ、未来を創り出そうとしているのか、島を見て、人々の話を聞いて考える。（山口県・上関町）	5人	0人	湯浅正恵教授 （社会学）
情報科学部 専門科目	災害時の早期避難を促す伝達システムの開発 広島市における土砂災害に着目し、住民へ早期避難を促すための災害関連情報を効率的に配信させることに取り組む。実際に地域の避難場所周辺において、ネットワークコースの研究室にて開発している草の根災害情報伝搬システムの端末を利用して、情報伝搬特性を評価する実験を行い、得られたデータを解析する。（広島市）	10	6	西正博教授 （通信工学） 河野英太郎准教授 （ネットワークソフトウェア）
	音声対話技術でペッパーが広島を観光案内 情報科学の専門性として音声対話技術とロボットプログラミングを扱う。実践的な課題として「ペッパーに広島の話させよう！カーブの話でもOK」を取り上げ、地域情報として広島地域の観光などを扱う。（広島地域）			竹澤寿幸教授 （音声言語情報処理） 黒澤義明助教 （発話意図理解）
	Web ページやアプリケーションの企画とコンテンツ制作 Web ページコンテンツあるいは Web アプリケーション作成を題材とし、企画・立案からコンテンツ制作まで、3～5名程度のグループによる共同作業で実施する。プロジェクト管理をアジャイルソフトウェア開発手法の一つである「スクラム」という手法に従って進めることにより、複数名でのソフトウェア開発の進め方を学ぶ。（広島地域）			中田明夫教授 （組込みシステム）
	民間企業と公的機関の社会活動等の調査 民間企業・公的機関における企業および社会活動を調査する。その後、実際にその現場を見学し、最終的に参加者全員による報告会を行い、民間企業・公的機関における課題およびその解決方法について議論する。（広島地域）			増谷佳孝教授 （医用画像工学） 式田光宏教授 （医用マイクロ工学）
芸術学部 専門基礎科目	地域の特性を生かした作品制作 （彫刻、日本画、視覚造形、漆造形） 各担当教員の指定する対象地域において、その地域の特性を理解し、培ってきた専門的知識や技術・方法等を活用して、地域の魅力の創造や課題解決に取り組む。（北広島町、廿日市市、広島市、東広島市）	19	5	伊東敏光教授（彫刻） 荒木亨子准教授（日本画） 中村圭准教授（視覚造形） 青木伸介講師（漆造形）



(4) COC+単位互換の実施 (H29年度～R元年度)

COC+教育プログラムのカリキュラムの充実を図るため、参加校間において各校の地域志向科目を提供する新たな単位互換制度を設け、平成29年度から開始した。

一般的に、単位互換において学生の履修のネックになるのは、学校間の物理的距離と授業時間割のずれである。このため、学生の受講の利便性を考慮し、遠隔講義システムの使用が可能な科目や集中講義形式での実施が可能な科目を中心に設定することとした。

平成28年度に、協働協議会の教育プログラム開発委員会、同ワーキング会議において協議・調整を行い、協定を締結し、各校において提供科目の検討を行い、平成29年度から開始した。

■協定の締結

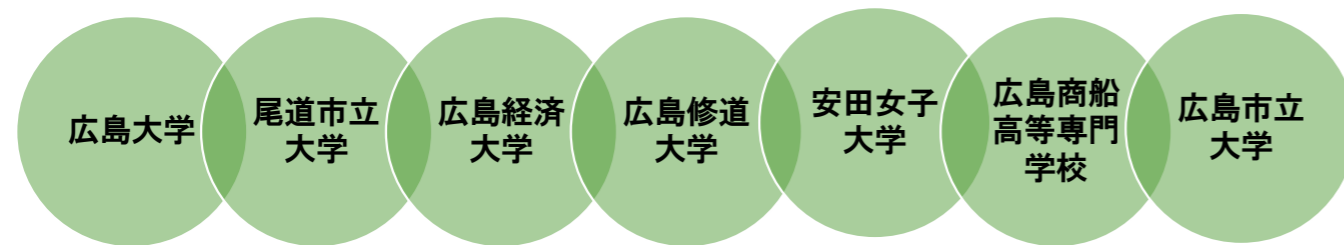
「COC+事業参加大学間の単位互換に関する協定」

締結日：平成29年1月23日

■提供科目

各校の地域志向科目(集中講義形式での実施や遠隔講義システムの使用が可能な科目を中心とする。)

■科目提供校



■科目数・出願人数 (H29年度～R元年度)

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
科目提供校 科目数	(協定締結)	6校 17科目	7校 18科目	6校 22科目
出願人数	—	7人	11人	12人

R元年度 COC+単位互換出願状況

大学名	科目名称	単位数	開講学期	募集人数	出願人数(人)									
					広島大学	尾道市立大学	広島経済大学	広島修道大学	安田女子大学	広島商船高専	広島市立大学	広島工業大学	広島国際大学	
広島大学	◆しまなみ海道域 海洋生物学実習	1	前期集中	20										
	◆基礎生態学 臨海実習	2	前期集中	20										
	◆進化発生学 臨海実習Ⅰ	2	前期集中	15										
	◆進化発生学 臨海実習Ⅱ	2	前期集中	16										
	◆命の尊厳を涵養・食 農フィールド科学演習	2	前期集中	30							1			
	◆しまなみ海道域 海洋生物学実習	1	後期集中	20										
尾道市立大学	瀬戸内文化論	2	前期	10										
	地域の伝統文化 (囲碁)	2	後期	5										
広島経済大学	◆広島を学ぶ	2	前期集中	10							6			
	広島歴史と文化	2	後期	20										
広島修道大学	地域イノベーション論	2	後期集中	若干										
安田女子大学	国内観光論	2	後期	5										
	観光政策論	2	後期	5										
広島市立大学	◆ひろしま論	2	前期	5										
	NPO論	2	前期	5										
	◆創作と人間	2	前期	5					5					
	広島観光学	2	前期	5										
	地域再生論入門	2	後期	5										
	広島産業と技術	2	後期	若干										
	地域再生論	2	後期	5										
	アートマネージメント 概論	2	後期	5										
	観光情報学	2	前期集中	5										
◆は教育ネットワーク中国単位互換併用科目					0	0	0	0	5	0	7	0	0	

(5) 「マツダ・広島市立大学芸術学部 共創ゼミ」の実施（寄付講座）

広島市などが進める、産学官が連携した自動車関連産業の振興政策を背景として、COC+事業協働機関である自動車メーカーのマツダ(株)の寄付講座の準備を進め、平成29年度から開講している。

芸術学部では、他大学にない特徴として「デザイン工芸学科」を設置しており、「共創ゼミ」により、本学のデザイン工芸分野の知見と、マツダの精神や技術を融合させることにより、モノづくりの精神を真摯に考え、広島発の新たな価値(モノ)を社会に提供する創造力と知識、技術を修得した人材を育成し、広島が世界に誇れるモノづくりの拠点となることを目指す。これは、本学ならではの特色ある取り組みといえる。

業界の最前線で活躍するマツダのデザイナーから、普段の授業では得られない大きな刺激を得ている。ゼミの成果として、本学芸術資料館において、作品発表会を行い、アドバイザーボードである前田客員教授(マツダ(株)常務執行役員)から評価・講評を受けている。

■受講状況（H29年度～R元年度）

	H29年度	H30年度	R元年度
受講者数	18人	11人	11人
作品発表者数	12人	7人	8人



■マツダ・広島市立大学芸術学部 共創ゼミの概要

開設期間 2017年度～2019年度(延長予定)
対象 芸術学部2年次以上の学部生、芸術学研究科の大学院生等。
定員 10～15人
内容 マツダ(株)からの派遣講師と芸術学部教員の指導のもとで演習を行う。
代表教員 広島市立大学芸術学部教授 吉田幸弘
 マツダ(株)デザイン本部クリエイティブデザインエキスパート 高橋耕介
担当教員 広島市立大学芸術学部 大塚智嗣准教授、野田睦美准教授、藤江竜太郎講師、寺川清華助教
アドバイザーボード（作品審査・助言）
 マツダ(株)常務執行役員 前田育男



■スケジュール

ガイダンス 講義:マツダデザイン（マツダ本社にて）
 （以後、演習課題調査・構想）
 マツダデザインプロセスとカースケッチデモ
 スケッチ実習
 クレーモデリングデモンストレーション（マツダ本社にて）
 モデリング実習
 事前プレゼンテーション演習
 一次プレゼンテーション（テーマ発表とフォルムスタディー）
 一次選考結果発表（デジタルモデリングデモンストレーション）
 作品制作
 事前プレゼンテーション・準備
 作品発表会（市立大学 芸術資料館にて）

(6) 全学COC+研修会の開催

全学COC+研修会をFD・SD一般研修として各年度に原則として2回開催し、学内でのCOC+事業推進への理解促進や地域教育への理解を深めた。

内容として、地域社会の課題対応の必要性や地域志向教育のあり方について情報を共有し、現状の改善について考える機会とするため、講師は自治体(広島市)、COC+参加大学、地域教育に実績のある公立大学から招いて、各回のテーマを設定した。事業の実施状況についての報告も3回実施した。また、この研修会の開催については参加校にも告知を行って出席を呼び掛けた。なお、研修会へ出席できなかった教職員のため、研修会の様子を学内のウェブサイトにて動画で公開し、各自が後日視聴できる体制とした。



■全学COC+研修会実施状況 (H27年度～R元年度)

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
【第1回】 開催日「テーマ」 講師(参加者数)	3月8日 「広島大学のCOC事業」広島 大学大学院生物圏科学研究科・山 尾政博教授ほか(68名)	10月26日 「200万人広島都市圏構想の 実現に向けて」広島市企画調整 部・阪谷幸春部長(98名)	11月30日 「地域課題演習・初年度の報 告」本学社会連携センター・國本 善平特任教授ほか(65名)	12月11日 「高知県立大学の地域社会志 向教育の取組」高知県立大学地 域教育研究センター長・清原泰治教 授(37名)	1月10日 「横浜市立大学のCOC事業の 成果と地域貢献・人材開発」 横浜市立大学国際教養学部・鈴木 伸治教授(74名)
【第2回】 開催日「テーマ」 講師(参加者数)	—	3月6日 「大学が地域といかに関わる か」広島修道大学人間環境学部・ 三浦浩之教授(79名)	2月19日 「広島経済大学の興動館教育 プログラム」広島経済大学興動 館科目創造センター長・濱田俊彦教 授(30名)	3月26日 「地域貢献特定プログラムの 成果と課題」社会連携センター・ 國本善平特任教授(79名)	3月18日(新型コロナウイルスの影響 により延期) 「COC+事業の実施報告と今 後の継続に向けて」

大学が地域といかに関わるか
広島修道大学の地域志向教育プログラムの実践から

平成29年3月6日(月)
14時40分～16時10分
■講堂(小ホール)

【講師】
広島修道大学 人間環境学部 三浦浩之教授
ひろしま未来創成センター次長

山口眞由、徳山真由美、関西大学工学部土木工学科卒業、同大学工学部土木工学科助手、助手を経て専任講師に、博士(工学) 技術士(水産部門) 2002年から広島修道大学人間環境学部教授、文部科学省の平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」として採択された「修業が学習できるための教育修業支援プログラム」(修・研・修・研・修)のコーディネーター(次長)。2010年4月より人間環境学部学部長(2016年3月まで)。2010年4月から2015年3月まで、広島県庁で「大分県とのコンソーシアム」を務める。文部科学省、平成24年度「修・研」の重点推進事業(COC+事業)として採択された「インターンシップ・ブリッジ」によるひろしま未来創成プロジェクト(修・研・修)を推進・実施。以降、「インターンシップ・ブリッジ」によるひろしま未来創成プロジェクト(修・研・修)の実施に中心となる。広島県経済財政政策委員会、広島県総合計画審議会委員、広島市協会のまちづくり協議会会長、サッカースタジアム検討協議会会長等、公職を多数務めている。

広島市立大学 全学COC+研修会

社会プロジェクトに取り組む
広島経済大学の興動館教育プログラム
「ゼロから立ち上げる」興動館の育成

平成30年
2月19日(月) 16時20分～17時30分
広島市立大学 講堂・小ホール
対象：広島市立大学教職員・COC+参加校教職員の皆さん

【講師】
広島経済大学 濱田 敏彦 教授
教育・学習支援センター長
興動館科目創造センター長

社会人基礎力や人間力の育成を目指す。平成18年度から始まった広島経済大学の「興動館教育プログラム」は、全国にも大学におけるアクティブラーニングの模範的取組の先導となり、これまで多くの地域人材を育成に導いてまいりました。今回は、自ら立ち上げた様々なプロジェクトを、地域社会を舞台に展開し、成果を上げています。学生の学びと成長を、中心に考えられる実践を通して、プログラムの理念と実績についてお話しいたします。

【市民大学】学生プロジェクト
立志社中

広島市立大学 全学COC+研修会

高知県立大学における
地域社会志向教育の取組
地域教育研究センターの役割と域学共生教育の成果

平成30年
12月11日(日) 14時40分～16時10分
広島市立大学 講堂・小ホール

【講師】
高知県立大学 清原 泰治 教授
学長特別補佐
地域教育研究センター長
同 地域教育研究センター 地域連携課長
宗石 道代 氏

高知県立大学では、大学と地域が協働して、地域社会の課題に取り組む教育プログラムが積極的に進められています。特色のある「域学共生」「立志社中」の理念やアプローチ、成果などを伺います。これからの地域志向教育のあり方について、兵渡教育も担当「地域教育研究センター」の活動も含め、公立大学としての先駆的な取組に学びます。

【市民大学】学生プロジェクト
立志社中

広島市立大学 全学COC+研修会

横浜市立大学における
COC事業の成果と
地域貢献の取組・人材開発

平成30年
1月10日(日) 10時40分～12時10分
広島市立大学 講堂・小ホール

【講師】
横浜市立大学 国際教養学部都市学系
鈴木 伸治 教授
同 企画財務課副課長(地域貢献担当係長)
金井 国明 氏

横浜市立大学は、文部科学省COC事業の採択校として、平成25年度から5年間、「横浜未来都市構想推進を目的とした地域人材開発・興成づくり事業」を実施し、高い評価を受けました。修業支援の軸として「教育」が育む豊富な人材に寄り添う人材育成など、公立大学としての取組やミッションを明確にし、COC事業終了後も取組を継続しています。本学のCOC+事業は本年度が最終年度となりますが、この取組を継続した今後の取組が重要です。地域教育や卒業生などにより、地域社会とどのように向き合い貢献していくか、様々な取組が求められるものと見えています。ぜひご参加ください。

【市民大学】学生プロジェクト
立志社中